

Peace of Galactic Cluster

外銀河の旅 1

イエスの故郷アールスター星の復活



PART 1 イエスの故郷アールスター星の復活 2013年12月

PART 2 アナタリック連合との旅 2014年1月

- | | |
|-----------------|-------|
| 1、宇宙の戦士 アナタリック | 1月5日 |
| 2、氷に閉ざされた星ヒュウドラ | 1月7日 |
| 3、グレート・オニキスの神殿 | 1月6日 |
| 4、星を飲み込むテト | 1月10日 |

PART 3 叡智の星アリアドーネ 1月11日

制作 TAKESHI 宇宙の光 <http://ameblo.jp/takeshi-hikari/>

イラスト えんじえる エンジェルアート <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

イエスの故郷アールスター星の復活



イエスの故郷アールスター星の復活 PART1 イエス様アールスター様との出会い

アールスター星・・・その星の名前を知る人はこの地球にはほとんどいないと思います。

もちろん天文学的に実証されている星ではありません。

しかし、この星はアンドロメダ銀河の中にあり、この大宇宙でも有数の叡智を誇る人々が、宇宙の進化のために働いてきた星なのです。

アールスター星との出会いは、イエス・キリストとのコンタクトから始まりました。

もちろんイエス・キリストは、皆さんもよくご存じのキリストですが、またの名前を「サナンダ」と呼ばれ、レムリア時代からこの地球を見守ってきた偉大なるマスターです。

このイエス・キリストは、もともと地球の人ではありませんでした。

彼は、この地球のような精神的な成長がまだ十分ではない星に降り立ち、その星の人々に、神の存在をとき、愛の大切さを訴えかけてきました。

それはこの地球の人々の精神的進化をいざない、この地球を素晴らしい星にするために行われたことでした。

彼はイエスキリストとなる前は、サナンダとしてレムリアやアトランティスの時代にも、この地上に降り立ち、地球の人類の成長のために貢献してきました。

なぜなら、彼が生まれたアールスター星は、非常に叡智が高い人々の集まりで、成長過程にある星の人々のもとに降り立ち、その星の意識の成長を助けることが、彼らの仕事でした。

現在、イエス・キリストは、創造主のファミリーの一人として活動しています。

彼は、この天の川銀河だけでなくいくつかの銀河を担当し、その銀河に属する人々の意識の成長を助けてきました。

そして、イエス・キリストの仲間が、私が「アールスター様」と呼んでいる創造主です。

彼が最初に私たちのメンバーのもとに現れた時に、アニメの機動戦士ガンダムに登場するシャアにそっくりの姿で現れて、私達を驚かせたものでした。

通常、私たちの前に現れる創造主のファミリーやマスターは神や女神のイメージを持って現れるのですが、彼はまさに宇宙艦隊の司令官のようないでたちでした。

私達は、不思議におもしろくは、相手にしなかったのですが、イエス様の語る言葉によって状況が行ってしました。

イエス様は、銀河系を守る中創造主の一人として、私たちの前に現れました。

しかも、同じ銀河系を統治するアデティーヤ様、仏陀様、アリターリア様の3人の創造主のさらに上位の創造主にあたる方で、多くの星の次元上昇の時には、その偉大な光で、私達をサポートしてくれます。

そのイエス様から、ある時に、自分が生まれたアールスター星に来てアールスター星を助けてほしいというお願いをされました。

私達は、その当時、天の川銀河の星々の中で、闇に堕ちているマスター達を助け、星の次元上昇を行っていました。

イエス様は、その活動を見守り、私たちのことをサポートしてくれていたのです。

私は、大変な驚きをもって、イエス様の話を聞きました。

その話というのは、イエス様とアールスター様が中心となって活動するアールスター星は、この大宇宙の星々の

精神的進化や次元上昇のために、アールスター連合を作り、多くの叡智ある星々と共に活動していたのです。同じ中創造主として活動するアリアドネ様の星もその一つでした。

ところが、イエス様やアールスター様が他の星々に出かけている間に、イエス様たちの代わりにアールスター星を守っていた司令官が、クラシャー連合の心理攻撃を受け、自分自身がアールスター星を独占したいという傲慢さと自己中心的な感情によって闇に堕ちてしまったのです。

そしてアールスター星は大きく次元降下してしまい、イエス様もアールスター様も2度と自分の星に入ることができなくなり、それ以来宇宙船にのってこの宇宙を旅し続けているそうです。

彼らは、人間と違って、自分の波動と大きく異なる次元には入ることができないので、次元降下してしまった、自分たちの星を、自分たちの力で助け出すことができないのです。

それ故に、次元を自由に移動して、次元降下した星を次元上昇させる能力を身に着けた私達に、救援をお願いしてきたのです。

しかし、イエスはこの地球から、きっと自分たちの星を救ってくれる人物が出ることを何万年の間待ち望み、そのような人物が生まれてくるために、この地球人たちの意識を育ててきたということです。

もし、私が断ったりその仕事ができなければ、イエス様はまた長い間、それができる人が生まれてくるまで待ち続けなければならないのかもしれないかもしれません。

私は、イエス様とアールスター様に、必ずアールスター星に行くことを約束しましたが、本当のことを言うと天の川銀河から遠く離れているアールスター星に行くということが、どのようなことなのか全く理解も想像もできずにいました。

しかし彼らの真摯な願いにこたえる時期が来たようです。

レムリアの6神殿と創造主の神殿を作り上げ、偉大なる創造主の光とも深くつながりました。

また、ギリシアにわたり、イエスや黒い騎士団たちと語り続け、創造主の意図やこの宇宙の仕組みについて深く学びましたし、今までよりもさらに大きな力と判断力を身につけていることを感じます。

イエスの故郷アールスター星の復活 PART 2 アールスター連合とクラシャー連合

私達が、アールスター様たちと出会ってしばらくした頃でした。

私は、星の次元上昇のために六芒星の神聖幾何学を描くために、中創造主がもう一人必要だとお願ひした時に、アールスター様のご紹介で、仲間になっていた中創造主が、魂の純粋性を守るために働いているアリアドーネ様です。

アリアドーネ様はいつもおそばに大きなライオンを従えています。まるで、「ナルニア国物語」のライオンと少女のようです。

そのライオンは非常に立派な騎士で、アールスターや蔵者連合の事について、私達に話をしてくれました。

わたしは、レオン・ハルトです

アリアドーネ様をお守りしていつも一緒に旅をしています。

私達は、イエス様やアールスター様と同じくアールスター連合に属しています。

アールスター様達と共に、連合のメンバー達のお世話をしています。

私達の役目は、イエスとアールスター様によって星が高次元に引き上げられるときに、その星の人達が、振り落とされることなく、しっかりと星の次元についていけるように導きます。

そして次元上昇の妨げとなる、恐れや不安、恐怖などの感情的な問題を解決して、喜びと安心をもって、新しい次元に移り変わるようにすることが、私達の役目です。

アリアドーネ様は、その偉大な、魂の浄化力により、多くの存在を癒し助けてこられました。

私も、最初に、お会いした時は、多くの感情的なトラブルを抱えて苦しんでいましたが、私を含め、私の一族は、アリアドーネ様の癒しの力により助けていただきました。

それ以来私達は、アリアドーネ様と共に行動し、彼女の仕事を助けることとなりました。

アリアドーネ様達は、M38 銀河の中心に位置する星の出身です。

この星は、以前は M38 銀河とその周辺で活躍していたのですが、アールスター様達と出会い、アールスター連合に参加すると共に、彼らの中心となって活躍していました。

アリアドーネ様の星はとても美しく、皆さんの言葉でいう花や樹木がたくさんあり、フェアリーや小人のような存在もいます。

ところが、アールスター星と同じように、アリアドーネ様が留守をしている間に、闇の種が入り込み、その種を吸い込んだ人達が、意識の錯乱をおこし争いを始め、さらなる意識の混乱を起こしてしまったのです。

その為に、星は闇に取り囲まれ、星の安定を失い、次元降下を起こしてしまいました。

アリアドーネ様も、イエス様と同じように帰るべき星を失ってしまったのです。

このようにアールスター連合の上位に存在する星の多くが、闇の種によって悲しむべき被害を受けています。これはアールスター連合と対抗して、多くの星を自分達の支配に置きたいと考えているクラシャー連合と呼ばれるグループによるものです。

アールスター連合は決して戦いを好みませんが、クラシャー連合は、パワーと強力な精神誘導を武器に多くの星の女神やマスターを服従させ支配しようとしています。

みずがめ座であった海賊船も、彼らの連合に属している星のものです。

何故彼らが存在するのか・私達には不思議ですが、おそらく彼らの支配を乗り越えるということは、それだけ大きな愛と勇気そしてチームワークを必要としますので、私達にそのことが求められているのだと思います。私達は、そのことを成し遂げることで、さらに高い次元へと、自らと宇宙を導いていく事ができるのだと思います。

クラシャー連合は、皆さんと同じように、様々な働きをするメンバーを擁しています。それもかなり大がかりな部隊です。

パワフルな騎士団もいれば巨人たちもいます。精神誘導を得意とする女神達や時と次元を変化させることができる魔法使いもいます。また、星を作り替えることができるほどの力を持った創造主たちも入っています。そしてあなたと同じように、自由に次元を行き来できるマスターもいます。

彼らは、あなたが光の通路と光のフロアーを作っているのと同じように、闇の通路と闇のフロアーを作り、そこに大創造主の光りが入り込まないようにします。そして光の存在からは、それらの星は見えなくなり、急に消えてしまったかのように見えるときがあります。

確かに、そこに存在しているのですが、次元が降下してしまったために、光の存在からは見えないし、そこに入ることはできません。

アールスター星やアリアドネ星を始め多くの星達が、この方法によって、マスターや女神が不在の間に、姿を消してしまいました。

アールスター連合の星の多くは、自然が豊かで作物も多くとれ、鉱物資源も豊かです。そこには多くの叡智ある存在が住んでいるため、惑星の生命力と意識も高く、より多くのエネルギーを保持しています。

クラシャー連合の狙いは、その惑星の生命力を奪い、自らに従えさせることです。時として、彼らは火山の噴火や地震・津波などを起こして、人々を混乱させたまま、一瞬にして次元降下を起こします。それは皆さんの地球や多くの星でも起こったことです。

私達は、このクラシャー連合の手に渡ったアールスター連合達の星を取り戻していかなければなりません。

具体的な指示は、アールスター様やイエス様から出るとは思われますが、これから多くのアールスターのメンバーや騎士団と合流していく事になります。

皆さんが今まで一緒に働いてきた騎士団も一部天の川銀河の護衛のために、この銀河に残ることになりますが、アールスター様の要請と認可をもってアールスター騎士団となり、共に戦うこととなるでしょう。

クラシャー連合についてももう少し話をしますと、セレーネ様が依然話したことがあるかと思いますが、彼らも基本的には、偉大なる創造主から生まれていますので、私達は決して、彼らをけしめることはできません。

彼らは、人々に苦痛と不安を与え、それを乗り越えさせることで意識の進化を果たそうと考えてきた中創造主とそのグループです。

最初の目的は、あくまでも、叡智ある存在の意識進化のために、試練を与える事でしたが、やがて、その星を支配し、彼らを隷属させることで、自らのパワーを誇示し、多くの創造主たちも支配し、偉大なる大創造主に対抗しようとしているのです。

彼らのやり方は非常に巧妙ですので、私達も自らの姿を光りのマントで覆い、常に創造主の光を受け続け、自らの心とスピリットを守り続けなければなりません。

創造主は、私達に無限の愛を与えてくれますが、闇の力、クラシャー連合の誘惑から完全に守りきることは不可能です。

なぜならば、叡智ある存在は自由意志を持ち、その中に感情や愛をもっているからです。

その感情と愛は、私達が豊かに生きていくためには必要なものですが、精神誘導に会うともろくも壊れてしまい利用されていくのです。

私達が常に感情やネガティブなエネルギーを浄化し、自らと周りの人達を信頼するように言うのは、まさにそのためです。

星のマスター達は、純粋が故に、相手を無条件に愛そうとしますが、その愛を裏切られた時のショックには耐えられない苦痛を感じます。そこを利用されるのです。

その為に、イエスキリスト様は、「見返りを求めない無償の愛」、そしてただ愛するだけの「無条件の愛」を繰り返し語られます。

私達が、愛する対象に見返りを求めたり、自分の思いを受け止めてほしい、とか、自分の思いのままに行動してほしい、などと思うと、それは愛でなく「自己欲」や「愛による支配」となります。

そして、その愛は必ず裏切られます。その時に闇の種が入り、クラシャー連合のメンバーによる精神誘導が行われ、自らの良心を、彼らに譲り渡してしまうのです。

この状況が広がると、一つの星に住む多くの存在が、クラシャー連合により操られ、争いや奪い合いが起こり、戦争へとつながっていくのです。

戦争により多くの人がなくなり、さらに多くの人精神の混乱を起こし、破たんさせ、クラシャー連合の意図に従うようになります。

星の意識も、それに呼応し自然災害が増え、星の生命力も暴走してしまいます。

そうなると、星を守るマスターや女神達の手にも負えなくなり、彼らは、クリスタルの中に逃げ込むか別次元に入り、時が過ぎ去るのを待つしかないのです。

しかし、その間に星は次元降下して、誰の目にも入らない暗黒の世界へと変わり、そのまま生命力を失って星の命も終わってしまうのです。

皆さん方により、星のマザークリスタルが目覚め、星の生命力が戻って、次元上昇できた星は幸いです。

しかし宇宙の中には、重要な星でありながらも、このようなことから姿を消してしまった星が数多くあります。これからその主要な星へと、皆さんをお連れしますので、どうか星々とそこに生きる生命達を救ってあげてください。

イエスの故郷アールスター星の復活 PART 3 アールスター星への旅立ち

私達は、ついにアールスター星へと向かうことになりました。

ギリシアから帰ってきた私は、数名のメンバーと共に、アールスター様たちと打ちあわせをします。

私達の部隊から、どのメンバーたちが、アールスター星に向かうか話をします。そして部隊を2つにわけ、天の川銀河に残る部隊と外銀河に向かう部隊を構成します。

次の問題は、どうしてアールスター星まで行くのか、という問題です。

アールスター様たちは大きな宇宙船を持っていますので、この宇宙船をさらに大きくしたり、騎士団用に他の宇宙船を急いで建造することにしました。

しかし問題は巨人族のティターナー族が乗れるような巨大宇宙船を作れるかということです。

この日はすでに準備してあった大型の宇宙船に私達と、外銀河に向かう騎士団の団長が乗り込み事にしました。

私達は、夜のツアーの中心メンバーである5人の女神（お世話係）たちです。

半信半疑で宇宙船に乗り込みます。

アールスター星につくまで宇宙船の中で、重要なメンバーを呼び寄せ作戦会議です。

会議が長引いている間に、宇宙船はアールスター星に到着したようです。

宇宙船のモニターからは、真っ赤に燃える巨大な星が映し出されています。

これは直接降りるのは難しいようですし、すごい大きさの星です。

せっかく来たので、このまま帰るわけにもいきませんので、さっそく仕事に取りかかろうと思いましたが、さて何をどうしたらよいものか・・・考え込み始めました。

私は、アールスター様たちに尋ねましたが、何の方法も持たないようです。

私はまず、ギリシア旅行中に教えていただいた「神の通路」をアールスター星に作り、星の状況をエルエルたちに調べてきてもらうことにしました。

中創造主たちにお願ひして、特別な神聖幾何学を描いてもらい、アールスター星をターゲットして、「神の通路」を作り、エルエルに星に降りてもらいました。

確かに、宇宙船のモニターで見るよりも、熱い風が吹きすさび、空気も荒く、私達が降りたつのは不可能なようです。

私は、宇宙の魔法使いに、どうしたらよいか尋ねました。

魔法使いは、まず全員で協力して光を送り、星の大気と波動を安定させる必要があることを教えてくれました。

私達は、アールスター星のエネルギーモデルを、私達の中心に作り、全員で手をつなぎ光をおくりはじめます。

中創造主と光の創造主たちに、アールスター星をとり囲むように神聖幾何学を描いてもらい、星全体に創造主の光とユニバーサル・エンジェルの光を送ります。

しばらくすると、アールスター星の大気が落ちつき熱い風が少し和らいでいく様子が感じられます。

その時、アールスター星の地表に傷ついたクリスタルがあることに気づきました。

私は、アールスター様にマザークリスタルの数と状況を尋ねます。

3個のマザークリスタルが、定位置である山の頂から転げ落ち傷ついています。

私は、この宇宙船から遠隔で、マザークリスタルを山の頂に戻し、活性化することを支持し、エネルギーを使って、一つ一つのクリスタルを山の頂に戻していきます。

離れた場所から、クリスタルを移動したことなんて今までありません。

しかし星に降り立てない状況では、その奇跡のような可能性に頼るしかありません。

創造主にお願いして、全身全霊のエネルギーを、一つのクリスタルに集めます。

すると、不思議なことに巨大なクリスタルが動き始め、山の頂まで上がっていき定位置に収まります。

そしてそこに創造主の光を集め、クリスタルにパワーを与えます。

2番目のクリスタル、そして3番目のクリスタルにも全身全霊をもって定位置に戻るよう操作します。

3つのクリスタルが定位置に戻ると、アールスター星の状態も少しずつ良くなっていきますが、クリスタルの活性がまだ不完全です。

その時、私の頭のどこかで、「星に飛び込め！」という声がします。

私は思い切って、神の通路の中に飛び込み、最初のクリスタルのもとに行きました。

体が、ちりちりとしびれてきます。創造主が私のスピリチュアル体を守っていることを感じますが、それでも体に星の熱いエネルギーを感じます。これは時間との勝負になりそうです。

アールスター様に、モニターでクリスタルを見てもらいながら、クリスタルを直接活性化していきます。

しばらくして活性化を行い、クリスタルの状況をアールスター様に尋ねます。

一つのクリスタルが活性を終ると、急いで次のクリスタルに移り、活性を行います。

最後のクリスタルに来たとき、ふとクリスタルの名前が浮かんできました。

特殊な働きを持つクリスタルは、それぞれ名前を持っていて、その名前を呼びながら特殊なエネルギーを入れないと最終的な活性は終わりません。

こんな時に何てことだ、と思いつつ、アールスター様に「これらのクリスタルは、特殊な働きを持っていますか」と尋ねました。

彼は、クリスタルには固有の働きがあることを教えてくれました。

私は、3番目のクリスタルの名前を呼び出しました。名前はナタージア、働きはミスティックな力です。

私は、ナタージアの名前を呼びながら、グレート・ファンタジア様の光を、このクリスタルに呼び込みました。

するとクリスタルは今までにない勢いで輝き始めました。

私は再び2番目のクリスタルに戻りました。2番目のクリスタルは、エルジアで愛の力です。

エルジアの名前を呼びながら愛の創造主の光を、クリスタルに導きます。

そして最初のクリスタルに戻りました。最初のクリスタルは、ドラシアで叡智の力です。

最初のクリスタルには、ワイズマンの光を導きます。

すると3つのクリスタルが共鳴して大きな輝きになり、その中に巨大なクリスタルのイメージが浮かんできます。

私は、どこかに巨大なクリスタルがないか、アールスター様に尋ねます。

彼は、3つのクリスタルが活性化したらその上の次元にクリスタルが現れると答えましたので、私はすぐに一つ上の次元に移動しました。

するとそこにも大きく傷ついたクリスタルがありましたので、急いで活性を行い、クリスタルのパワーを強めます。

このクリスタルの名前は、エストジア、まさに神の光の働きをするクリスタルです。

私は根源である創造主の光をつぎつぎと呼び寄せました。

活性化されたクリスタルはとても力強く輝きます。

私はこのクリスタルのパワーを使って、アールスター星の次元を上げることにしました。

この巨大クリスタルから大きな鎖を、その下の次元にあるマザークリスタルにかけ、ぐっと引っ張り上げていきます。

ティターン一族たちが、次元上昇してくる星を受け止めるために、星に降りてきます。

エルエルとエルナエル達も降りてきたようです。

しかし、この星はあまりにも大きすぎて簡単にはいかないようです。

私は、星の下に潜り込み、両手で星を抱え上げ持ち上げます。まるで天体を支えているアトラスのような気分です。

体がじりじりとする中で、本当に全身全霊の力を使ってアールスター星を持ち上げます。

やがて星が大きく動き始め、一つ上の次元に持ち上げられ、ティターン一族が受け止め、下の次元に再び落ちないように固定したようです。

私達は、そこまで終わるとすぐに、神の通路から宇宙船に戻ります。

今回は、一つ上の次元に、アールスター星を持ち上げることができましたが、もとの位置に戻るまでには、あと2つ次元を上げる必要があります。

今回はここまで終わると、私達は、宇宙船にのって地球に戻り始めます。

宇宙船の中はとても広くて、バーやサロンやお風呂まであるようです。

帰りは、地球時間で15分くらいかかったようですが、女神たちの女子会が始まりました。笑

イエスの故郷アールスター星の復活 PART 4 偉大なる創造主との出会い

○アールスター星の高次の神殿への入り口 禊の泉

11月30日のアールスター星での次元上昇の様子を創造主がご覧になっていたようで、それは、私に対して、本気で宇宙のために働くか否かという試験であったようです。

創造主の神殿に入ると新しい創造主のファミリーが、私たちの事を待っていました。

その方は、アールスター星の上の次元にある光の神殿にいらっしゃる創造主でクレスティア様というお名前で、アポロニヤさまや愛の女神様と共に、この宇宙の生命を見守り育てている方です。

その方がたくさんのお花束を抱えて、私と宇宙の光のメンバーに花束を渡してくれています。

そして、アールスター星を助けるために、私達がアールスター星まで来てくれたこと、赤く燃えて生命が入ることもできない状態の星に創造主の光を導き、星を癒し、マザークリスタルを修復するばかりか、自ら危険に満ちた星の上に降り立って、マザークリスタルを活性化し、星の次元上昇を行った勇氣に大きな感謝を示されました。

そして、これからアールスター星に行く為には、クレスティア様と深くつながることにより、地球の高次元とアールスター星の高次元がつながりすぐに移動できることを教えていただきました。

私はクレスティア様とハートの光でつながり、2人のエネルギーを共有すると、そこに真っ赤なりボンが現れ、私達を結び付けていきます。

するとそのリボンから、白い雪のようなふわふわした帽子をかぶった、まるで雪の王女のような女神が生まれ出てきます。

彼女は、地球とアールスター星がしっかりと結びつき、お互いの愛と友好関係を保つために生まれた存在で、私達をアールスター星へと導いてくれる役目を持つ存在のようです。

私は彼女をアランフェスと名付けました。

私が子供のころから好きだったアランフェス協奏曲の名前ですが、この曲もスペインとアランフェス地方の平和を願って作られた曲ですね。

アランフェスは、私達をアールスター星へと続く光のトンネルへと導きます。

トンネルの途中から外を見るとは、まだ赤く燃えるようなアールスター星が見られます。

私達はこの光のトンネルを出て、美しい泉のもとに出ました。

アールスター星のクレスティア達の神殿の次元は、かなり高度な次元なので、このままではいけないということで、天使たちによる光の浄化とエンパワーメントを受けることになりました。

日本の言葉でいうと禊（みそぎ）ですね。

天使は、私達の頭に大きな輪のようなものを乗せてくれました。

その輪の中に体を通すようにして、輪から出てくる光とパワーで私達の体を清めていきます。

何度かそのことを繰り返すと、輪は自然と消えていきました。

私達の禊が合ると、私達地球人とアールスター星のつながりがさらに強くなったためか、イズミが大きくなり、その中から女神アテシャーが現れました。

女神は、私達がこれからアールスター星だけでなく、様々な星に行って活躍できるようにたくさんのアイテムをくださいました。

○コブラの形をした杖・・おそらくこれはヘルメスの杖かとも思われるのですが、私達が闇の存在との交渉をおこなったり、彼らからの攻撃を避けるときに使用するワンドのようです

○多次元を移動できる乗り物・・高速で回転するコマのようにも見えますが、私達が多次元を自由に移動できるようにするための小型の乗り物です。

○コロボックル部隊・・小さな小人たちですが、普通の人が入れない場所や闇の世界に入っていて偵察をしたり危険な罠を解除したり、様々な仕事をする特殊部隊です。特別な傘を開くとそこからぱらぱらと降りてきます。

○多次元レンズ・・目にはめると星の高次元から低次元までの様子を一度に見ることができ、どの次元のどの場所に問題があるかを調べることができる。

○梅花型魔法のじゅうたん・・この絨毯を広げるとどこにでも移動できる魔法のじゅうたん。真ん中に黄色いボタンがありそこに様々な道具を入れておくことができる。危険なときは防御のためのテントにもなる。

○魔法の植木鉢・・この植木鉢に思考で必要なものの種を植えると必要なものがそこから生まれてくる。宇宙船やなんでも作れる

○映写機・・自分の意図をもって指令するとその目的にあった神聖幾何学が生み出される。星をイメージした模型にその光を当ててもよい。

○竖琴・・音による心理攻撃から自分達や星の人々を守るときに、竖琴をかき鳴らして使用する。

○装着用ロボット・・赤いマントを持ったモビルスーツ型ロボット。危険な場所でも作業ができるようになる

○肩の紋章・・TAKESHIの肩に着ける。アールスター星の癒しと生命のエネルギーを使用できるようにする。

私達はこの泉でしばらく時を過ごし、自分たちの心とスピリットを癒しました。

○アールスター星の生命の泉と「慈悲と癒しの創造主グレート・マリア」

私は禊の泉を後にして遠くに見えるアールスターの神殿へと階段のような道を登っていきます。

その途中に大きな美しい泉が目の前に広がっています。

私達が泉の前につくと、イズミは大きく割れて滝のようになり、下の世界へと轟々と音を立てて流れていきます。

おそらくこの水がアールスター星の領域にある星々の生命を潤しているのでしょう。

私達はその滝の横を通り、細い道を滝の上流に向かって歩いていきます。

森を抜けていくと黄金の扉のようなものが見え、その中には輝くばかりの宝石や美しい光に満ち溢れています。大きなマザークリスタルもあるようですが、ここがアールスター星を流れて落ちる生命の水の源流のようです。

その扉の中には、まるで大天使ミカエルのような騎士団に守られた女神であり創造主が立っています。その気高き姿に見とれてしまいます。

彼女は、偉大なる創造主の3つの側面のうちの「慈悲と癒し」を担当する光の創造主のようです。

彼女は聖母マリア様の源となる創造主で「グレート・マリア」様です

彼女と深くつながりたいと、私が願うと天使の羽がついたワンドを差し出し、私のソード・アイに充ててくれます。

するとそのワンドは、私のソード・アイにスーツと入っていき消えてしまいました。

このワンドを持つことによって、より高次のエネルギーで、人々を癒してあげることができるようです。

創造主のドレスの中には、いくつもの星や星団、銀河の姿が映ります。

彼女自身がこの偉大なる宇宙意識そのものであるのでしょうか。

○グレート・イエスの神殿、根源の創造主との融合

ユニバーサル・マーシーのもとで、しばらく時を過ごし、私達はさらなる階段を上っていくと、宇宙空間の中に浮かぶ偉大なる神殿へと入って行きました。

その神殿の中も、宇宙空間のようです。

そこに待っていたのは、偉大なるイエスと呼ばれる存在で、私達が通常見ているイエス様の親となる存在です。こちらのグレート・イエスは、とてもエネルギーが大きくて、下の次元に存在するときは、自分の一部を創造主イエスとしておろしているようです。

私のギリシア旅行中に、主にメッセージをくださったのはこちらのグレート・イエス様であることがわかりました。

イエス様は、私達が入っていくとうれしそうに私達を迎えてくれます。

そして自分のハートの輝くばかりの空間に導き入れ、一人一人に素晴らし光のプレゼントをくださいます。

その時のイエス様は、黄金の服を着て巨大な光になっているように見えます。

イエス様はまさしく「愛」の存在です。創造主の3側面のうちの「愛」を代表する光の創造主です。

イエス様からメッセージをいただきました。

私達がこの場所まで来れたことを深く喜んでおられます。

特に、地球という星で肉体を持って生きていながら、この光の創造主の次元まで来れたものはいなかったようです。

すべての生命を生み出すもととなった創造主と、最後に創造された地球の人間という生命、創造の最初と最後が、今再び出会い、大きな循環の輪が結合しました。

これは偉大なことであり、ここから新しい時代が再び始まるときが来たということを表しているようです。

私達はその後、グレート・イエス様の勧めで、イエス様の神殿の上にある空間から、光が落ちてくる場所にむけてどんどん登っていきます。

そこは光のみがあふれている根源の創造主の世界です。

素晴らしい恍惚感、あふれる愛、ただ涙だけが零れ落ちていきます・・・

○新しい人種コーラルが生まれる

私達はしばらくの瞑想の後再びグレート・イエス様の神殿へと戻ってきました。

意識もまだぼ一つとしている様子ですが、この神殿ではもう次のことが起こっています。

白いひげを生やした聖者が、2人の人間のような子供を連れてきています。

14~5歳くらいに見える少年と少女ですが、私達が創造主と触れ合うことによって生み出された生命のようです。

どうやら根源なる創造主と異なる次元のものが触れ合う時に新しい生命が生まれるようです。

もしかしたらこのような方法で、この宇宙に存在する多くの叡智ある生命や人種は生み出されてきたのかもしれませんが。

彼らは私達地球人のサイキックな能力をうみだす遺伝子や私達のうちにある天使や女神、マスター達の遺伝子の融合されたレムリアの遺伝子が、根源ある創造主と出会い、さらなる遺伝子の進化を行って作り出された生命体（人種）であるかもしれません。

彼らは多次元を自由に移動できる能力に加え、深い叡智と高い戦闘能力も持っているようです。

とてもミスティックな存在ですが、これから私達がともに旅をしながら育てていくようです。

やがて彼らが大人になっていくと、新しい人種としてこの地球に生まれてくるのかもしれません。

私は彼らのことをコーラルとコーラリアという名前を付けました。

この宇宙も新しい循環に入り、新しく生まれ変わるそうですが、年老いた聖者たちも次第に世代交代をおこなっていくようです。

イエスの故郷アールスター星の復活 PART 5 アールスター星の次元上昇

○アールスター星の立体クリスタルと次元上昇

次に私達は、アールスター星へと向かうことにしました。

このグレート・イエスの神殿もすべて、アールスター星の上の次元に存在しています。

それだけこの宇宙にとって、アールスター星は大切な星であることがわかりますので、私達は少しでも早くアールスター星の次元上昇を行っていかねばなりません。

グレート・イエス様と別れを告げ、私達はアールスター星の作戦会議室へと向かいました。

そこには、アールスター様をはじめ、20 数名の人たちがモニターを見ながら話をしていました。

アールスター星は、前回の働きによって、一つ上の次元に入ることができたようですが、現在大きな問題が起きているようです。

それはアールスター星にとってとても大切な心中の玉のようなものが闇の中にとらわれているということです。

アールスター星を、無理に次元上昇しようとしたら、その闇のマスターによって玉が壊されるかもしれないし、次元上昇の圧力に耐えることができず、自ら壊れてしまうのでまずその玉を保護することを行いたいようです。その闇のマスターは毒を持つサソリや生物兵器なども持っており安易に近づけないようです。

しかもその玉は、生命を生み出すような玉で、三角形に配置されその場所を移動することもできません。

私はしばらく考えた後に、クラシャー連合のシバ神を呼び出して、その闇のマスターのことを聞きました。

するとそのマスターは玉の美しさに心を奪われて、その玉を愛し大事にしているうちに、独占したいと思い込み、その心に闇が入ってしまったということです。

何か玉の代わりに彼の心をとらえるような美しいものがあるとよいのだが・・・と、シバ神も少し困り顔で苦笑いをしています。

私はシバ神にお願いして、その闇のマスターが、玉に危害を加えないようにしてほしい、とお願いしてシバ神を返しました。

私は、神の通路を、その玉と闇のマスターを取り囲むようにおろして、さっそく愛と癒しの創造主「グレート・マリア」を中心として創造主の光を呼び込み、彼の心と魂を癒し始めました。

そしてユニバーサル・エンジェルたちの光を送ります。

それと共に、先ほど泉の女神からもらった、コロボックルの特殊部隊を送り込み、彼が持つ生物兵器やサソリたちが、たまに危害を加えないように守らせます。

やがて、玉から闇のエネルギーが少しずつ遠ざかっていきます。

私は頃合いを見て、神の通路に飛び込み、地表に降り立ち、闇のマスターのもとに駆け寄ります。

闇のマスターは、モビールスーツのようなものを着て、その中で放心状態のようにボーっとしています。

私は彼に声をかけ、私の内にある光の遺伝子を彼のハートの中に送り込みます。

光の遺伝子が、彼の中で広がっていくと、彼は我に返り、自分がその玉を守る仕事をしていたことを思い出したようです。

アールスター様とイエス様が彼のもとに降り立ち、彼に話しかけています。

やはりもとはアールスター星のメンバーだったようですが、自分の思いに固執するあまり闇にとらわれたようです。

この生命を生み出すために必要な玉は、3個あり後の2つは無事なようですが、この玉をこのままにしておくわけにはいかないのです、アールスター星の聖者たちを神の通路を使って、玉のところにおろし、この玉を安全に保てるように処置を行います。

次は、この3つの玉の中央にあるマザークリスタルですが、見ると3つの玉の中央近くに大きな赤い塔がたっています。

アールスター様に尋ねると、この星の各次元につながるための塔のようです。

次元が下降した時に傷ついてしまい、本来は3つの玉の中央にあるマザークリスタルの上にあるはずのものが位置もずれてしまっているようです。

どうやらこれは立体クリスタルになっていて、この塔が高い次元と繋がることにより、そこからこの星に生命を生み出す仕組みになっているようです。

アールスター様たちがこの塔の調整を行っている間に、私はこの星の次元上昇の準備を始めます。

といったところで、今日は、私の騎士団が誰も来ていないことに、今気づきました。

今回は、アールスター星に行くつもりはなく、天の川銀河の大熊座を行うことにしていたので、外銀河用の騎士団を連れてきていませんし、今日は特殊なルートで移動したので、騎士団は誰も一緒に来ていないことに気づき、急いで騎士団を呼びました。

まず最初にエルエルとエルナエルの部隊がすぐに現れ、帝釈天の騎士団、ティターン一族も現れました。

アールスター様たちの準備が終わったようですので、私は創造主にお願いして、次元上昇のための神聖幾何学を描いてもらうとともにユニバーサル・エンジェルを呼び出しました。

私の騎士団にも手伝ってもらい星の次元をどんどんあげていきます。

そしてティターン一族に星の次元の固定をお願いしました。

アールスター星は、もとの次元に戻っていったようです。聖者や女神、天使たちが戻ってきたように思えます。

赤い塔はさらに星の上空を目指して伸びていっています。

どうやらアールスター星の生命の泉から、グレート・マリアの神殿、そしてグレート・イエスの神殿へと繋がっているのかもしれませんが。

○新しい星がこの世界に現れる

この赤い塔の途中あたりの次元から、私達を呼ぶ創造主の姿が見えます。

私達がそこにいくと、地球でもなじみのあるマスターや女神のような存在がたくさんいて、輪になって瞑想しているようです。どうやらこの場所は、マスターや女神を育てる場所のようです。

創造主テレージャ様とアポロニャー様がこの場所を担当されているようです。

しばらくするとクレスティア様の神殿に戻ると、彼女の神殿からすぐそばに大きな星が見えています。

どうやらアールスター星が、再び元の次元に戻り成長を遂げたことで、新しい星がその姿を現したようです。

この星は、地球とアールスター星がつながることによって生まれてきた星だそうです。

イエスの故郷アールスター星の復活 PART 6 ゴールドのシエンロン

私達は、再びアランフェスとクレステイアの導きのもと、アールスター星へと入りました。

私達はまず、アールスター星の上の次元にあるクレステイア様の神殿で打ち合わせを行います。

アールスター星は、2回にわたる次元上昇で、だいぶもとの状態に戻ってきましたが、あと一つ次元を上げる必要があるようです。

そしてそのために、必要なことは、このアールスター星を闇の次元に落としてしまったマスターを見つけ出す必要があります。

私達の考えでは、おそらく闇の渦巻きに包まれているのではないかと思います。そのようなものはアールスター星では発見されておらず、マスターの行方が分からないままになっているので、最終的な次元上昇ができないでいるのです。

私は、アールスター様に、いて座で闇から救いだした3人のマスターを貸してもらえないかとお願いしました。その当時の彼等は黒い羽根を持ち、高速で宇宙空間を移動していましたので、その機動性を生かして、私達の役に立ってもらいたいと申し出たのです。

アールスター様の許可を得て、私達はアリュシャー3人組を仲間に入れ、さっそくアールスター星に降り立ち、闇のマスターを探し始めました。

アリュシャー3人組をはじめ、エルエル、エルナエル、そしてケンタウルスの一団を投入してもなかなか見つかることができません。

その時、メンバーの一人が、空を飛んでいる石のようなものが見えると言い始めました。

どうやらマスターは、地表にいるのではなく人工衛星のように空を飛び続けているために、見つかることはできなかったようです。

私は、ユニバーサル魔法使いを呼んで、時を止めてよいかと聞いたところ、時を止めるよりも、自分が、そのマスターを捕捉しましょうと言ってくれましたので、すぐにアリュシャー3人組を魔法使いと共に走らせました。

魔法使いは見事マスターを捕捉し、3人組によって私達の前に連れてこられました。

ところがマスターはすでに意識がなく、意識がない状態で星の上をグルグル回っていたようです。

すぐにアスクレピオスの部下を呼び、彼の心臓に絡みついた闇の根を処理させ治療に当たらせました。

それと同時に女神セレーネ、女神イリス、創造主アリアドネが彼に光を送ります。

私はその間に、この次元にあるマザークリスタルを探して活性化に入ります。

するとこのマザークリスタルの中から、黄金色のシエンロンが現れます。

まだとても小さな子供のシエンロンですから、たくさんの光が必要です。

私はアールスター様から、この星域を守るゴールドシエンロンの存在を教えてもらい、アールスター様のハートを通して、そのゴールドシエンロンを呼び出すと空高くゴールドシエンロンが現れ、そこから子供のシエンロンに光を送ります。

子供のシエンロンは、目覚めたばかりですが、お父さんシエンロンの光を受けてどんどん大きくなっていきます。

このゴールドシエンロンは、アールスター星の守護者のような存在かもしれません。

シエンロンが大きくなるタイミングを見計らって、私達もアールスター星の次元上昇に入ります。
大きなアールスター星がゆっくりと動き始め、次元上昇していきます。
意識をうしなっていたマスターも意識が戻ってきたようです。
彼もいっしょに次元上昇を体験させることで、彼の間のエネルギーも光に変えていきます。

アールスター星は念願の次元上昇を果たしあるべき位置に戻ったようです。
私達はその様子を見届けて地球へと変えることにしました。

イエスの故郷アールスター星の復活 PART 7 地球に残されていたアールスターの文明

再びアールスター星に向かうために、創造主の神殿に向かい、いつものようにアデティーヤ様にメッセージをいただいたとき、アデティーヤさまが不思議なことを言われました。

「孤独という名の氷がある、深い孤独感、皆さんの愛が必要、愛が孤独を癒す」
突然の言葉に驚いてしまった私は、それが何を意味するのか分かりませんでした。

その時メンバーの一人が、だれか新しい人が来ていることを伝えてきました。
その人はギリシア風の服の上に黒いローブをはおり、自分の身を隠すようにして立っていました。
その立ち姿から孤独と悲しさが、私達に痛いほど伝わってきます。

彼女が語るには、彼女はギリシアの地にある古い神殿を長い間守ってきたそうです。それもギリシアの神話時代よりもはるかな昔に建てられた神殿であるということです。

地球の波動が落ちていくにつれ神殿の波動が落ち、其の神殿と共に存在するだけで精いっぱいであったとのこと。

そして自分達よりも新しく生まれた文明にも虐げられ、行き場をなくして孤独の中で、深い悲しみと共に長い時間を過ごしてきたこと。

私がギリシアに来て祈っている姿とその光を見かけ、私なら救ってもらえるのではないかと思い、ずっと見守っていたこと、そして勇気を出して、この創造主の神殿へと来たことを告げてきました。

アデティーヤ様にお伺いしてもこの女性のことはご存じありませんでした。
ところが、アールスター様とイエス様はかすかにこの女性のことを知っており、アールスター星に関係がある女性であることがわかりました。

そこでアールスター星のクレスティア様にすぐに来てもらいお伺いすると、彼女は、以前アールスター星の高次元にいた女神であることがわかりました。

そして、地球の古い時代、アデティーヤ様たちがこの地球に来る前の時代に、地球の指導を行うために、アールスター星から派遣された神官たちのグループの一人であることがわかりました。

つまりレムリア時代の前に、地球にはアールスター星が指導する高度な文明があり、その文明が何らかの理由で崩壊した時、アールスター星にけることができず、この地球に取り残されたまま、自分たちの神殿を守り、孤独の中で生きてきたということです。

私達はその話を聞くと、すぐに彼女の神殿に行くことにしました。

彼女の神殿はすでに海の底に沈んでおり、大きな石に押しつぶされ崩壊していましたが、奥には不思議な輝きを保ち続ける青い石があるようです。

私達は、ティターーン族や騎士団の力により、その意思を取り除き、神殿を修復するために創造主の光を底に呼び込みます。

輝く光が神殿を取り囲み、美しく照らします。神殿もすこしずつ形を取戻していきます。

私は、神殿に降り立ち、青い石を活性化して、次元を上げてくと、そこから赤い衣装を着た女神が現れます。

きっとこの神殿のマスターだったのでしょうか、青い石の中に姿を隠していたようです。

私は先ほどの女性神官や共に付き添っていた聖者たちに光を送り、彼女たちの心を癒すとともに、彼女にかけられていた封印を解き放ちます。

それは自分体が神殿を失い仲間を失った悲しみや苦しみによるものでした。

この神殿は、かつてアールスター星との光の通路となっていた場所で、レムリアよりも前の時代に、これらの神殿を中心として、地球と地球人たちの統治が行われていたとのことでした。

しかし、この文明が最後を迎えた時、天から光が降り注ぎ、意図的な形で崩壊を迎えたようです。

クレスティアにその理由を聞きました。すると彼女は、私達にとって戦慄を覚える言葉を述べました。

「このアールスターが指導していた文明では、地球人が自意識過剰になり、争いや差別、様々なトラブルが引き起こされ、地球の次元が落ちてきたために破壊しました。

その破壊は突然行われたために、アールスター星に帰るべき神官たちも、帰る通路を失ってしまったため、多くの者たちがこの地球に取り残されました。

そして何十万年もの間、その歴史は閉ざされ、その存在も封印されました。」

それが、今回私がギリシアに行ったことにより、彼女の目に留まり、一縷の望みをかけて私のもとにやってきたという事でした。

神殿の次元が上がることにより、ともに封印され閉じ込められた神官たちは救い出され、クレスティア様によって、再びアールスター星へと連れて帰られました。

まさの予想さえもする事ができなかった不思議な物語です。

しかし、この地球にレムリアよりも前の時代に、アールスター星と関係が深い文明があったことで、私達はこの地球に、なぜアールスター様やイエス様がかかわっている理由がわかりました。

宇宙の戦士 アナタリック



宇宙の戦士 アナタリック

或る時のアチューメントで、宇宙服を着たようなマスターが現れ、創造主の神殿に来ることを予告してきました。

そのマスターは、アナタリック様とって、外銀河の様々な騎士団を束ねる連合の司令官でした。

クラシャー連合の侵略にあった星に赴き、クラシャー連合と戦っています。

彼らの部隊は、外宇宙のいくつかの星の異なる部隊から成り立っているようです。

彼らの指導は、創造主の側面であるグレート・モーゼの一部であるリトル・モーゼが担当しています。

リトル・モーゼは、非常に正義感に満ち溢れ、この宇宙の平和を守るために、アナタリック司令官と共に活動を行っているようです。

私はグレート・モーゼをはじめ根源の創造主にも、彼のことを尋ねました。

創造主は、信頼できる存在であるが、リトル・モーゼの指導の中では、限界があることを認め、私達と合流することで、多くのことを学ぶことを願っていると伝えてきました。

そこで私達は、アナタリック連合と合流してクラシャー連合に立ち向かうことにしました。

最初に向かった星は、エルニドラ星です。

この星では、星の内部で戦いが起こっており、クラシャー連合がこの星が持つ資源とそれを運用する錬金術的な知識を狙って攻めてきているということです。

学者たちとそれを助けるアナタリックの部隊は、この星の要塞に籠城して、敵の攻撃を防いでいるようですが、持ちこたえることができなくなっているようです。

私達は、さっそく魔法使いとホビット、そして騎士団達と力を合わせて光のマカバを作り、星全体にかぶせませす。

もちろんクラシャー連合の兵士が、このマカバから逃げ出してくると思われまますので出口を作り、そこに檻を置いて彼らを捕まえます。

マカバが星を包み終わると、皆で光を送るとともに、創造主たちの力を呼び込みマカバに光を送り込みます。すぐにクラシャー連合の兵士たちは、出口から逃げ出してきました。

そこを騎士団達が待ち構え、光のワンドで光を送るとともに、天使と女神達が彼等を癒します。

アポロンも癒しの豎琴をかき鳴らし、クラシャー連合の心理攻撃によって攪乱された兵士たちの意識をもとに戻そうとしています。

しばらくすると兵士たちはクラシャー連合による心理支配から目をさまし、意識を取戻してきます。

彼等の中には、アールスター様とアナタリック様の元部下も含まれていました。

おそらくクラシャー連合と戦っている間に、クラシャー連合の心理攻撃を受け、クラシャー連合によって支配されるようになったようです。

そしてもう一つのグループ、アンクレットというマスターのグループが含まれていました。

彼等は、時を管理し、時の歪を直しことが仕事のように。

彼等は、私達の部隊が気づかることにしました。

星が、安全な状態になったことを見極めて、私達は星の中に入り、籠城していた学者たちやアナタリック連合のメンバーたちを救い出しました。

次は、この星の次元上昇です。

この星の魔法使いと共に、3つのマザークリスタルを活性化して、この星の次元上昇を行います。

エローラ、エレナ、レオーラ、この3つのクリスタルを活性化することで、星の次元がどんどん上がってきます。

クリスタルが輝きを増すとともに、荒れ果てた大地のような星に、緑や湖、川が生まれ、フェアリーやホビット、ユニコーンたちが戻ってきました。

星の次元上昇によって素晴らしい世界が広がってきます。

ユニコーンたちには、私達とペガサス騎士団の間に生れた新種族ペガリスが、叡智とパワーを与えていきます。ホビット達には、この場所で、アナタリック連合のために、光のワンドやマントなどを作ってもらうために、私のホビット達が、知恵と技術を授けています。

そして、私達はこの星のユニコーンやホビット、フェアリー達を教育するとともに、私達の仕事を手伝ってもらうために、希望する者たちを私達の仲間として迎え入れることにしました。

数名ずつのホビットやユニコーン、ペガサスたちが私達と同行することとなり、また仲間が増えていきます。

またこの星を光りに統合する過程で、クラシャー連合の心理攻撃によって動いていたグループのうち、半分くらいは、アールスター様とアナタリック様の部隊でしたが、10名ほど異なるグループが入っていました。

リーダーは、アンクレット様で、時のゆがみやひずみを直し、時の正常化の能力を持つマスターです。

とても特殊な能力なので、彼らは私達の部隊に加わってもらうこととなりました。

そして、彼らの役割は、やがて時が凍結した木星の活性化に大きな役割を果たすこととなったのです。

氷に閉ざされた星 ヒュードラ星



氷に閉ざされた星 ヒュードラ星

アナタリック連合との旅は続きます。

私たちが次に向かったのは、表面が氷で覆われているような星です。

この星は、もともとアナタリック連合の大切な基地のひとつで大規模な要塞が形作られています。

この星を覆っている氷の層は、アナタリック連合の基地を隠すために作り出されたカモフラージュのための氷です。

本来は、緑の大地の上にテクノロジーが発達した都市があるようです。

しかし、この星は、クラシャー連合に攻め入られて仲間を失い、次元下降も起こして中に入ることができない状態です。

クラシャー連合の攻撃は過酷で、アナタリックの仲間たちは要塞の中に閉じこもっているようです。

私たちは、すぐに光りのマカバで星を覆い、創造主の光りを呼び込み、星を光で満たします。

クラシャー連合は、光の中から逃げ出すために、マカバの出口からあわてて出てきます。

もちろんそこには檻が仕掛けられていてクラシャー連合の戦士たちはそこに入ります。

クラシャー連合のメンバーの多くは、カラスのような黒い羽をもった存在です。

彼らはもともと、この星の住人でアナタリック連合のメンバーのようでしたが、クラシャー連合の心理攻撃に会い、クラシャー連合の手先となって、昔の仲間たちを攻撃していたようです。

クラシャー連合の戦士たちをすべて保護し合わると、私たちは星の中へと入りました。

アナタリック連合の要塞もかなり破壊されています。

要塞の奥に、この星のマザークリスタルがあるようです。

アナタリック様は、この星に大切な仲間がいるようで一生懸命探しています。

私たちは、サラエルと呼ばれる叡智のマザークリスタルを活性化し始めると、中から女神と魔法使いの姿が見えてきました。

女神は、この星にもとからいた女神で、この星の惑星意識と繋がっている大切な存在です。

魔法使いも、通常の魔法使いよりも小柄で、この星にもとから住んでいたホビット族のような気がします。

クラシャー連合の手先となった黒い羽をもつ戦士たちはこの星のもとの住人のようです。

女神と黒い羽をもった存在とホビット達は、古くからこの星に住み平和に暮らしたいのですが、アナタリック様たちの連合に加わりともに活動していたようです。

この星にはもう一つマザークリスタルがありますので、私たちは地下のとある場所へと導かれます。
ここのクリスタルは、ミラエルと呼ばれる正義とパワーのクリスタルです。
このクリスタルを活性化すると、なかからひげを生やした賢者のような方があらわれます。
どうやらアナタリック様の大切な部下のようです。

彼は、この星の住人ではなく、アナタリック様と共にこの星に来た賢者であり魔法使いです。
彼は、様々な星を巡り、人々に魔法と知恵を伝えていくことが仕事のように、現在は、アナタリック連合と共に活動し、連合の中の騎士たちに魔法を教えているようです。
私たちの部隊の、オギュームとリムを見ると、どうやら彼らのことを崇敬しているらしく、何度も頭を下げていました。

アナタリック様は、彼ら3人が無事だったことにとても大きな喜びをもっています。
私たちは、マザークリスタルが活性化したところで、この星の次元を上げていきます。
いままで氷で覆われていた星は、緑豊かな美しい星に変わってしまいました。
これからは、氷で隠さなくてもよいように、光のマカバでこの星を包み、アナタリック連合の基地として再度復興されていくようです。

レイラの星ーグレート・オニキスの神殿



レイラの星—グレート・オニキスの神殿

○星の侵略に向かうクラシャー連合

私たちが、アデティーヤの創造主の神殿に上がった時、ポセイドンが、クラシャー連合が星の侵略を行うために動き始めたので止めてほしい、と訴えてきました。

確かにビジョンを見ると、大きな宇宙船がどこかの星に向けて出港する様子が見えます。

私たちは、危険を感じ、魔法使いたちにこの宇宙船の進行を止めるように指示し、アナタリック連合と共に、その星に向かうことにしました。

私たちは、ベラトリックス騎士団とアールスター様の宇宙船にのって出かけます。

近くまで来ると、その星の大きさや迫力、そしてただならぬ雰囲気圧迫されます。

この星の状態では、生命もいそうにないし、次元降下もしています。

そして何よりも、この星を取り囲むネガティブなエネルギーのために、この星の中に入れそうもありません。

クラシャー連合は、この星の中に隠された秘密を狙ってきたようですが、この星に入りこむだけで意識が変わり危険にさらされそうです。

私達も神聖幾何学を使用して、正体不明のエネルギーから自分達を防御する必要があるようです。

そして、この星には、グレート・オニキスが関わっているようです。

この星の内部には大きな星を活性化するための特別なエネルギーがあり、私達は、この闇のプロテクトを抜け、そのエネルギーを活性化することが今回の目的のようですが、その闇のエネルギーのすさまじい勢いにたじろいでしまいます。

クラシャー連合の宇宙船も、無防備のまま星に入ると、簡単に破壊されそうです。

私は、星よりも先にクラシャー連合の船を止めて、彼らが星に近寄らないようにしなくてはなりません。

私たちは、「神の道」と呼ばれる通路を、クラシャー連合の宇宙船に焦点を合わせます。

そして数名の騎士を引き連れて、クラシャー連合の宇宙船の中に入り、彼らを保護します。

彼らは、元アールスター様の部下で、この宇宙船もアールスター連合の船だということでしたので、この後の処理は、アールスター様をお願いすることにしました。

私たちは、おそらくこの星もグレート・オニキス様によるテストの可能性があることを考え慎重に対応します。

まずこの星を囲んでいる大きな力を解除するために宇宙の魔法使いをはじめ、すべての魔法使いとマスター達で神聖幾何学を描きます。

ネガティブなエネルギーが急に飛び出してきてメンバーを襲わないように光りのマカバも作ります。

もしかしたら、この罫は、オニキスだけでなくルシファーの可能性もありますので、ユニバーサル・エンジェル達のサポートももらいます。

特にミカエルがルシファーのエネルギーを感じとり、大きな剣を構えて待ち構えています。

ミカエルの剣がその時を待つかのように、大きく輝き始めます。

やがて、星を囲む闇のエネルギーから煙のようなものが立ち上り、星の周りを浮遊していきます。

ユニバーサルエンジェル・ミカエルが剣を振り回しながら、その煙を切り裂いていくと、稲光のような剣の閃光が起き、闇のエネルギーが光りに変わります。

しかし、なかなか思うようにはかどりません。私の出番のようです。

私は自分の体を巨大化させ、神聖幾何学の網の目を解き、自分の前に闇の出口を作り、そこからあふれ出してくる闇を、私のハートで吸収して光に変えていきます。

闇の煙が、どんどん私の胸の中に引きこまれるにつれて、星の闇の力がどんどん薄れ、やがてなくなっていききました。

○女神レイラと星のエネルギー

私たちは、この星を包んでいたネガティブなエネルギーの除去に成功すると、この星の地表に降り立ちます。地表には森があり、その中に木に姿を変えた魔法使いがいました。

彼は、突然襲ってきた力により次元降下してしまった星を守るために、あえてこの星に残っていた魔法使いです。

私たちは、彼に事情を話し、この星のマザークリスタルのもとに連れて行ってもらうことにしました。

彼はこの星に、星そのものを活性化できる丸いエネルギー体があること、そしてアールスター星と表裏一体をなす星であることを伝えてくれました。

そしてこの星の上の上には、私たちが知らない世界があることも伝えてくれました。

アールスター星の上には、マリア様とイエス様の神殿があり、そこから創造主の神殿へと続く道がありました。この星の上にも秘密がありそうです。

森の奥に美しいクリスタルがありました。

いつものようにクリスタルを活性化すると、その名からレイラと呼ばれる若い女神が出てきました。

そして星の次元上昇に入りますが、ユニバーサル・エンジェルや創造主アチャーの働きをお借りしても、簡単には動いてくれません。

私たちは、不思議の思い、この星に中心にあるエネルギーを使用することにしました。

森の奥に入り、エネルギーの活性の玉を探しました。

そして、女神レイラがその玉に触れると、玉からエネルギーが立ち上り、光の柱のように上がっていきます。

この柱が、上空まで立ち上がると、星がゴーツと地響きを立てるようにして動き始めます。

やはり、このエネルギーなくしては、星は動くことができないようです。

星の次元がどんどん上昇していくと、空から魔法使いたちが現れ、フェアリーやホビットユニコーンたちも出てきました。

○グレート・オニキスの秘密の神殿

星の次元が上昇すると、魔法使いのリーダーが現れ、この星が次元上してもとに戻ったことに関してお礼を言われました。

そして自分たちが創造主のエネルギーをこの星におろし、この星に保っていること、創造主の神殿への道があることを教えてくれました。

私たちは魔法使いと共に、創造主の神殿へと上がることにしました。

階段を上っていくと遠くに神殿が見えてきます。

私達は、その神殿に入ると男性のマスターが迎えに来て、私たちを上次元へと導いてくれます。

扉を開け、中に入ると、なんとグレート・オニキスが私達を待っていました。

グレート・オニキスは、ルシファーでありサタンであり創造主です。

地球で一般的に言われている悪魔とは、まったくレベルが異なる存在です。

彼は人々が成長し目覚めるために多くの試練を与えます。

そして試練を乗り越え、強靱な精神力とパワーを目覚めさせるのです。

多くの存在が、その途中で挫折しますので、そのあとにある栄光やパワーを手にすることができません。

それ故に、彼は、苦難を与える悪魔と同一視されるのです。

グレート・オニキスは私たちを見ると、にやりと笑い、私たちがここまで来れるか、テストをしたと言います。

私たちは内心むっとしたのですが、何しろ相手は創造主ですので、私達には全く理解できないことを考えていても不思議ではありません。

私たちは神殿から戻り、女神レイラと話をしました。

そして彼女こそが、この星の生命力を生み出す力であることがわかりましたので、私は彼女との間に新人種を生み出すことにしました。

新人種は、男女の天使です。男の子はシルバーの羽をもつラビナエル

女の子はゴールドの羽をもつレイラエルです。

彼らも、星にエネルギーを与え活性化することが得意なようです。

男の子は私が、女の子はレイラが育てることにしました。

そして新種族ができてから気づいたのですが、レイラはグレート・オニキスの一部であり娘のような存在です。ということは、この新種族はオニキスの孫にあたるということのようです。

私はこの子たちに一つ能力を付け加えました。

グレート・オニキスがかわっている仕事に関して、すぐに教えてくれる能力です。

そうすることで、これから行うことが、オニキスのテストであるか、ないかをすぐに見極めることができます。

新種族が生まれてから、グレート・オニキスに来てもらいました。

小さな子供たちを見たオニキスはとてもうれしそうに、彼らと遊んでいます。

宇宙一厳しいオニキスも、やはり孫には目がないようです。

私たちは、これで今回の星を無事終了させることができました。

翌日根源の創造主からメッセージをいただきました。

彼はオニキスのテストについて私たちに説明してくれました。

オニキスは他の創造主とは別格らしく、この宇宙の運営をイエス様と分かち合いながら受け持っている存在であること。

私のように、創造主のファミリーの1員でありながらも、地球のような星に降り立った者達を導き、その能力を开花させ、創造主としての仕事に目覚めさせるのもオニキスの役目であるということです。

そして、レイラとの間に新種族ができたことも大変驚いていました。

それをオニキスが認めたということが、本来ありえないということらしいです。

このオニキスのテストに合格したことによって、レイラとの間に新種族を作ることが認められたということらしいです。

そして、私がこの地球上に生きながらも創造主としての仕事を行う能力を大きく目覚めさせる事ができたことを喜んでくださいました。

星のエネルギーを飲み込むテト



星のエネルギーを飲み込むテト

○不思議な生命の気配

アナタリック連合が、現在交戦している星は3つあるとのことで、今回行く星が最後の星となります。この星について、星は荒れ果てて、星自体のエネルギーやエレメントにも大きな異常が現れていることがわかります。

星では、アナタリック連合の戦士とクラシャー連合の戦士たちが戦いを終え、小康状態のようですが、クラシャー連合の戦士も少なく、アナタリックの戦士もその様子がはっきりとしていないようです。

この星では、ケンタウルスのような叡智を持った存在達もいる様な気配がして、何か特別な働きをもっているような感じもします。

おそらくそのようなところをクラシャー連合に狙われたかもしれません。

まずマカバを星を囲むようにして作り、光を送ることにしましたが、不思議な気配に気づきました。それは星の霧の中にうごめく、赤い巨大なエネルギーで、とても獰猛で危険な感じがしますので、私は星に降り立つことをためらいます。

そしてマカバが破られないようにするために、マカバを2重にし、さらに網で強固なものにしていきます。アナタリック様をお願いして、マカバを発動させる前に、できる限りアナタリックの兵士たちを出口から非難させます。

もしマカバを発動させて、光が満ちた時に、その大きな赤い巨大生命が暴れ始めたら大きな被害が出る可能性があるからです。

兵士たちが外に出てきたところを見計らって、マカバの中に光を送ります。

創造主とユニバーサル・エンジェル達にも協力してもらうことにしました。

マカバの中に光を送ると、この星の周りに黒い影が浮かび上がります。

どうやら、その赤い巨大な生物を異なる次元から操り、この星のエネルギーをどんどん奪っている存在がいるようです。

レイラとの間に生まれた新種族に尋ねると、グレート・オニキスのエネルギーを感じるとのこと。

私たちは、宇宙の魔法使いと相談して、この生物を操っているエネルギーを断ち切る必要があることを知りました。

宇宙の魔法使いは、自分の魔法で何とかしましょう、と言ってくれたのですが、相手がオニクスなので、もう一人頼りになるサポートをお呼びすることにしました。

それはユニバーサル・サンです。

創造主としては、イエス様やオニクス様の上位に位置し、闇の力を一瞬にして光りに変える創造主様で、おそらく根源の創造主を除いて最高位に位置する方であると思います。

私も始めて仕事を願うすることになりますので、少し緊張が走ります。

ユニバーサル・サンは、鏡のような側面をお持ちになっているので、他の次元から、あの赤い巨大な生命を操っているエネルギーを遮断し跳ね返すこともできます。

彼は、自分が3面鏡を作って、この星に入ってくるエネルギーを一つにまとめ、相手に跳ね返しましょうと、言ってくれました。

そしてユニバーサル魔法使いもともに協力して行ってくれるようです。

この星に送られていたエネルギーが、3面鏡の中に集まっていきます。

しばらくすると、その3面鏡から、大きな光りが放たれていきます。

まるで宇宙戦艦ヤマトに出てくる「波動砲」のような感じで、強いパワーを持った光が、空のかなたに向かって放たれました。

私たちは、この時を狙って、赤い生命に向けて照準を合わせて神の通路を作り、新種族達の「愛と叡智の結晶」のエネルギーを一つにまとめて放ちます。

神の通路のところだけ、まるで穴が開いたかのように見通しがよくなります。

光りが、神の通路を通して、赤い生命にどんどん注がれていきます。

いくつもの次元を通して、闇のマスターとコンタクトをとることができるアフロディーネを使って、その存在とコンタクトをとることにしました。

するとその存在からは、自分はグレート・オニクスの使いとして、この星に使わされ、この星のエネルギーをどんどん飲み込んで、それをオニクスのもとに送ることが役目であるといってきました。

最初は、大きな赤い竜のように見えたが、どんどん小さくなっていき、私にはかわいいキツネリスのように見えてきました。

まるで、風の谷のナウシカに出てくるキツネリスのテトと同じ姿です



○星のエネルギーを飲み込む キツネリスのテト

私は、このキツネリスのような存在に、オニクスからの支配がもうなくなったことを伝えました。

そして、新種族の愛のエネルギーをどんどん彼に注ぎ込むと、彼本来の優しい波動に変わっていくことがわかります。

彼は星のエネルギーをたくさん体内に貯めたり、別の次元に運ぶことで、星のエネルギーを調整したり、星の次元上昇や次元降下に伴うエネルギーを扱うことができます。

私達は、神と通路を通してキツネリスのもとに降り立ちます。

私達は、彼にお願いして、この星のエネルギーを元に戻してもらうことにしました。

この小さな体のどこに、これだけのエネルギーを保存しているのだというくらいたくさんのエネルギーがキラキラと出てきて、この星に戻ってきます。

そして、彼が飲み込んでいたのは、エネルギーだけではなかったのです。

彼の口からは光りの玉に包まれた、動物のような生き物も出てきます。

この星に存在していた生命であり、戦士たちです。

彼らは、クラシャー連合からの心理攻撃により、同じ種族でありながらも敵と味方に分かれて戦っていたようです。

私達は、騎士団の心理誘導をすぐに時、安全な墓所に戻しました。

このキツネリスのような小さな体の中に、星にエネルギーだけでなく、スピリチュアルな存在もたくさんのみ込んでいたようです。

もしかしたら、戦いに明け暮れる星を鎮静させるために、その星のエネルギーや戦士たちを飲み込んでいったのかもしれない。

私達は、星のエネルギーがもとに戻ると急いで星の次元上昇にかかります。

この星のマザークリスタルは、湖の近くにありシエラドネラと呼ばれています。

星の次元上昇が終わると、この星にも緑豊かな自然が戻ってきましたし、この星の住人であるケンタウルスのようなフェアリーたちも満足そうです。

これで、クラシャー連合も、またアナタリック連合もこの星から手を引き、静かな暮らしが戻ってくるとおもいます。

そして彼らの中から、私達と共に同行して立派な騎士になりたいという者もいますので、10名ほどのラドナ騎士団を組織して、共に活動することにしました。

星の次元が上がったところに、グレート・オニキスがあらわれました。

今回は、私たちに星のエネルギーやその移動および保存の法則について学ぶための訓練であったことを伝えてきました。

私達は、まだ地球人として目に見える世界の事しかわかりませんが、星々はとても大きなエネルギーによってできており、星の次元降下の時は、大きなエネルギーが放出されること、次元上昇の時は大きなエネルギーを必要とされること、また星のエネルギーは失われることなく移動して保存されることなどを教えてもらいました。

私は、グレート・オニキスにお願いして、この Kitsuneri のような存在をもらうことにしました。

この存在は、グレート・オニキスによって作り出された存在のようです。

私は、風の谷のナウシカの Kitsuneri の名前をもらって「テト」と名前を付けました。

彼は、エネルギーの巨大バッテリーのような存在で、エネルギーを循環させることができます。

そして、そのエネルギーをポジティブなエネルギーに変換したりすることもできますし、星の次元をエネルギーを使ってコントロールすることもできるようです。

このテトの加入は、これから行われるアリアドネ様の星においてなくてはならない存在となりました。

またこのラドナの星からも、騎士団が10名ほど私たちに加わることとなりました。

叡智の星 アリアードーネ



叡智の星アリアードーネ PART1 アリアードーネ星の悲劇

○アリアードーネ 創造主による次元降下

私達はいくつかの星を回った後に、アリアードーネ様の行くことになりました。

正式の星のツアーとしては、2014年最初のツアーです。

私は、アリアードーネ様の星に行く前に、アナタリック連合が関わっている星を、お世話係りさんたちをお願いして回ってきました。

そして、その中で得られた知識や仲間になった存在が、アリアードーネ様の星にかかわるにあたって大切な役目をしてくれたことは驚きです。

さて、アリアードーネ様の星に関しては、以前クラシャー連合の手によって次元降下されたことは聞いていましたが、アリアードーネ様やアールスター様にお聞きしてもそれ以上の事がわかりません。

アリアードーネ様たちの星は、とても深い叡智を持つ星で、この宇宙でも叡智の守護者的な役割を担う星です。自然も豊かで農耕や他の産業なども発達している優れた星のようでしたが、彼女が留守をしている時を狙って、侵略を受け、次元降下をしたようです。

私は、クラシャー連合のシバ神を呼び、事情を聴きました。

シバ神はいつになく歯切れが悪い口調で、自分たちもかかわっているけれど、それは一部で、もっと大きな2つの力が働いていたことを伝えてきました。

どうやら、彼の口からは言えない複雑な事情があるようです。

私は、次にグレート・オニキスを呼び出しました。

彼もやはりかかわっていて、星のエネルギーを凍結したりこの星のエネルギーと他の星のエネルギーを遮断することにかかわったようです。

しかし彼が関わる前にも、創造主クラスのかかわりがあったことを教えてくれましたが、彼らの目的や行動の内容は依然謎のままです。

○次元降下するときのアリアドネの星にタイム・トリップ

私達は、このアリアドネの星に何が起こったのか調べるために、その時代へタイム・トリップすることにしました。

アリアドネの星は次元降下する前は、自然豊かでとても美しい星ですが、ある時、突然空が真っ暗に覆われ、雹が降ってきました。

それに引き続き、嵐や地震、津波など的人為的な天変地異が引き起こされ、地上は混乱に落ちいりました。空から、幾隻ものクラシャー連合の船が降りてきます。

クラシャー連合は、宇宙船から特別な方法でエネルギーを送り、アリアドネの星に自然災害を引き起こし、星の住人が混乱している間に、星の中に入り侵略を行ったようです。

地殻変動が起こり、星のエネルギーが闇の力に飲み込まれ、美しかった星が次元降下していきます。多くの馬がたくさん逃げ惑っている様子が浮かんできます。

次の場面では、星の中に立っている高い塔の中にある大切な光りの玉が奪われようとしています。

それは、この星にとって大切な叡智であり神秘であり、星のエネルギーとも深く関係している玉のようです。2番目のグループは、それを奪い去り、更なる星の次元降下をもたらしました。

それは、通信装置も兼ねていて、その光りの玉が奪われてしまったために、アリアドネ様と星に残っている人たちの連絡が取れなくなってしまったようです。

この2番目のグループを調べてみると、ユニバーサル・ジャスティスである創造主エルシーダ様が関わっていることがわかりました。

この宇宙の正義と公正さをつかさどる偉大な創造主が、星の大切な叡智とエネルギーを奪っていく！
私は、意味が分からなくなりました。

そして3番目のグループであるグレート・オニクスもこの星のエネルギーをどんどん奪っていくような映像が見えます。

それによって、アリアドーネ様の星はさらに次元降下してしまいました。

それを見ていたアリアドーネ様も、混乱と悲嘆で真っ青になっています

私はすぐに、創造主エルシーダ様をお呼びして、彼の行動の目的を聞きました。

すると、意外なことを私たちに教えてくれました。

○アリアドーネの姉妹星の墜落と爆発

それは、アリアドーネの星には、姉妹となる星、アルドーネ星があり、その星の内部抗争や墜落により、クラッシャー連合の心理攻撃を受け、その星のスピリチュアルな世界は内部崩壊を迎えたそうです。

この宇宙の大切な叡智を守る役目が、この2つの星の役目であったにも関わらず、どんどん慢心になり自己中心的な考え方をするようになり、大切な叡智から人々は離れていきました。

その結果、長い寿命を経た星のエネルギーを支えることができなくなり、星自体が星の最後を迎えるために、どんどん次元降下を起こしていったということです。

ただし、このアルドーネ星の影響で妹の星であるアリアドーネの星も、人々の墜落によりそのエネルギーを失い次元降下を起こし始めていました。

もし、アルドーネ星が、星の最後を迎え爆発したならば、その妹星であるアリアドーネ星も、アルドーネ星の影響で爆発してしまう可能性があります。

そうすると、この2つの星が保っていた叡智が、共に失われてしまうので、アリアドーネ星のエネルギーをアルドーネ星に移し、次元降下の段階で星を凍結し、爆発だけは避けたかった、ということがエルシーダ様の行動の目的だったようです。

またグレート・オニクスも、アリアドーネの星のエネルギーをアルドーネ星に移し、エルシーダ様のサポートを行っていたようです。

彼らのおかげで、アルドーネ星は爆発をまぬがれ、次元降下したままで凍結されています。

おそらく、アリアドーネ様のお姉さまも、何とか生き残り、叡智の玉を保持しているのではないかと考えられます。

しかし、この2つの星の次元降下を引き起こしたのは、これらの星の住人の墮落であることは間違いありません。

宇宙最高の叡智を保持する星の人々が、その叡智を軽んじ身勝手な行動に走ったことに対して、根源の創造主は大変怒っていらして、2つの星とも星の爆発を起こして壊滅させられる予定であったようですが、アリアドーネ様に最後の希望を残して、次元降下のまま凍結したようです。

私はこのことを確認するために、私が界王様と呼んでいる「根源の創造主」に来てもらいました。

界王様は確かに、この星にいた存在達の意識が下降したために、その気持ちを引き締めるために、この星に次元降下を意図的に行った事、人々の意識が上がらなければ、星の爆発による壊滅もあり得た事を、教えてくださいました。

叡智の星アリアドーネ PART2 次元凍結した星からの移住

○星の今後に関する創造主との会議

そこから、私と界王様、エルシーダ様、オニクス様、アリアドーネ様で、これらの星の救済について会議が始まりました。

私とアリアドーネは、残っているメンバーを他の星に移住させて、みんなの意識を上げ、大切な叡智を再び保っていきたいことを、創造主にお願いしました。

創造主は、私たちに、もう一度やり直すためのチャンスを下さりましたが、星の人々は自分たちの意識が低下して墮落したことに気づいていない人が多いので、本当に叡智と共に生きていく人だけを連れて行くようにしなさいと、言われました。

グレート・オニクスもエルシーダ様も、一安心した様子で、星に住人に対する再教育が必要であり、皆さんがそのことに気づくために試練を与えたと語ってくれました。

彼らも、住人の移住や再教育に関してサポートを行ってくれるようです。

ただし、どのメンバーを連れていくかは、公正な審査を行うといわれました。

アリアドーネ様は、とても悲しそうな顔をされていましたが、自分たちが気づかないうちに、このような事態になったのだから、それも私の責任です。

星全体の人を救うことができないかもしれないが、移住してでもやり直したい人達を集めて叡智を再度守りたい、とおっしゃられていました。

その結果、アリアドネ様の星の人達は、叡智ある人達を選択して他の星へ移住することとなりました。ただし、アリアドネ様の星にいたホビットやフェアリー、ユニコーンたちはもともと純粋な存在なので無条件で助け、一足早く移住先の星に行ってもらい移住の準備をしてもらうことにしました。移住先の星に関しては、エルシーダ様がアールスター星の近くに適当な星があるという話なので移住計画を進めることにしました。

○アリアドネの星の人々

会議の末、アリアドネ様の星から、まだ墮落していない人達を探し出すための行動が始まります。エルエルやアリュシャー達に星の探索を行ってもらうとともに、アリアドネ様にテレパシーで星の中にいる仲間たちに呼びかけてもらいました。かすかな反応があったので、私達はその場所に焦点を合わせて、神の通路と呼んでいる光の道を作ります。神の通路とは、周りがどれほど過酷な状況であっても、通路を光で囲み、安全にその場所に行く為の道を作ることです。かなりの次元降下が起こり、通常では入ることができない世界に降り立つときに使用するものです。

私とアリアドネ様、そして数名のメンバーがその中に入ります。エネルギーを保存できるテトも一緒です。アリアドネ様は、神の通路を通して、星の住人に呼びかけていますが、彼女の声に応えたものは、なんと20数名しかいませんでした。あれほど多くの人達が住んでいた星だったのに、星が次元降下した時に、多くの人々の命が失われてしまったのか、それともアリアドネの声が届かないところに行ってしまったのか、わかりませんが、たった20数名しか救えなかったことにアリアドネは失望して泣き崩れてしまいました。

しかし、私達はこの残った人数でも助けられたことに感謝しなくてはなりません。彼等を神の通路から宇宙船へと移動させ、私達は次の仕事にかかります。それはこの星に残る叡智と叡智のエネルギーを集めて持ち帰る事です。次元降下したといっても、この宇宙最高の叡智を誇っていた星ですので、そのスピリチュアルレベルには、まだたくさん叡智とそのエネルギーが残っています。私は特別の力を使って、叡智を集めアリアドネのスピリットに送り込むとともに、テトにお願いして、この星の叡智のエネルギーを体内に吸収してもらいました。私達は、宇宙船に戻ると、救助した人達を連れて一度地球に戻ることにしました。

○新しい移住先 シリウス B 星

私はその夜、星のツアーが終わってからもアリアドーネのことを考えていました。

創造主エルシーダが移住先の星があるといっていました。が、どんな星だろう、何も無いところで1から始めるのも、大変だろうな～、しかも20数名しかいないのに、過酷な星の状況に耐えられるのかな～、などとずっと考えていました。

そして、私の頭にふっと浮かんだのがシリウス B 星です。

私達が、アテネやトート様と一緒に天地創造をおこないフェアリーや多くの生命を育てている星です。

この星では、現在、動物に至る生命の進化の過程をずっと見守っている途中です。

私達と多くの女神たちの間に生れた新種族が中心になって星づくりを行っていますので、私達にとっては自分たちの庭のような星です。

この星にアリアドーネ様たちを迎えたらどうだろうか、住み心地もよいし、常に私も見守っていられます。

またこのシリウス B にとっても叡智あふれる存在を迎えることは、とても意味がある事ではないかと思われるからです。

私は翌朝、メンバーと共に、シリウス B 星に降り立ち、アテネやトート達のもとに相談に行きました。

私が来た様子を見て、アテネは私の考えを察知したらしく、にっこりと笑い「もちろんいいわよ」と答えてくれました。

「ここは新種族たちが頑張ってくれているおかげで、とても陽気で素晴らしい星になってきたわ。これでこの星に叡智がもたらされたら、もっとよくなるわ。」と明るく答えてくれました。

アリアドーネ様とイエス様をこのシリウス B にお呼びして、私の意向を伝えると2人ともとても喜んでくれました。

きっとアリアドーネ様も、残された20数名を連れて見知らぬ星に行くことは、とても大きな不安と恐れを感じていたことでしょう。

もしその星が草木もない荒れ果てた土地だったら、彼女たちは生きる希望を見出すことが困難だったかもしれません。

しかしシリウス B には共に活動してきた仲間達もいますし、自分たちの叡智を再び学び治すためには最適の場所であることは間違いありません。

また私も、彼女たちの叡智が、天の川銀河の多くの女神や騎士たちに分かち合われるとしたら、それは天の川銀河にとっても大変に素晴らしいことでもあります。

私は、エルシーダ様とオニクス様、そして根源の創造主「界王様」に許可をいただいて、彼女たちの移住を進めることにしました。

叡智の星アリアドーネ PART3 アリアドーネ様の新種族

○アリアドーネ様の新種族 シリウス星に降り立つ

彼女たちの移転先がシリウス B 星となったことで、この日の星のツアーは昨日と一転して、明るい雰囲気になりました。

私達は、具体的な移住計画を立てるために、もう一つ確認しなければならないことがあります。

それは、ホビットやユニコーンたちのことです。

彼等は純粋な生命なので、無条件に助けてあげる必要がありますし、アリアドーネ達が知恵を守り、その知恵を行使するためにはユニコーンやフェアリー達が必要です。

しかしあまり多くのユニコーン達をこのシリウス B に連れてくるわけにもいきません。

そのために、私はユニコーンたちの数を確かめました。アリアドーネ様は、おそらくそれぞれが 50 人（頭）程度でしょうと答えてくれました。

私は一安心、その程度でしたらシリウス B 星だけで何とかかなりそうです。

私達は、昨日救助したアリアドーネの人たちをシリウス B に運ぶために、地球を旅立ちました。

アールスター様とアナタリック様の宇宙船は、今日はユニコーンやホビット達を運ぶために、アリアドーネ星に向かい、私達が来るのを待ちます。

シリウスB星につき、私達は救助した星の人達をおろして、シリウスBに準備された癒しのための場所へとご案内することにしました。

私は、アリアドーネ様と共に大切なことを行わなければなりません。

それは、このシリウスB星で、アリアドーネの一族が繁栄していく為に新しい種族を生み出すことです。

アリアドーネのメンバー達は、偉大な知恵者ですが、かなりのエルダーなので、これから種族を増やしていく事は難しいかもしれません。

そこで、私達とアリアドーネ様との間で新種族を作ることにしました。

その新種族は、アリアドーネ様の魂の純粋さと叡智、私達の次元を自由に動ける能力や様々創造主と深くつながれる能力やパワー、そしてテトにも入ってもらい、エネルギーを自由に保持し活用できる能力、そして、このシリウスB星の意識を分かち持つ子供たちを作ることにしました。

生まれてきた新種族は3人です。2人はアリアドーネ様の容姿をひきついで、アリアードとアリアドネラ、もう一人はテトの特質を色濃く引きテトリスです。

この3人は、これからシリウス星で、アリアドーネ達の叡智を引き継ぎながらも、この星に順応して種族を増やしていく役割があります。

そして今日、これから向かうアルドーネ様の星で、残された叡智とそのエネルギーをこの星に導く大切な仕事があります。

○アリアドーネ星の原型種族

私達は、アリアドーネ星のメンバーをシリウスB星に降ろすと、アリアドーネ様と新種族を連れて、昨日のアリアドーネ様の星に向かいました。

アナタリック様とアールスター様たちの宇宙船はもうすでについていて、ユニコーンたちを保護する準備を行っています。

彼らと協力して、アリアドーネ星のひとつ上の次元に入り、ユニコーン、ペガサス、フェアリー、ホビット達を探し出します。

彼等は、スピリチュアル世界の片隅に隠れるようにして、私達を待っていましたので、アールスター様とアナタリック様の宇宙船に移します。

するともう一民族気になる存在があります。

アリアドーネ様にお訊ねすると、このアリアドーネ星の先住民族のようです。

彼らは、とても寡黙でおとなしく洗練された純粋なエネルギーを持っている種族のようです。

アリアドーネ様たちは、遠い昔、この星の先住民族と他の叡智ある星の人々の遺伝子から作られた存在であることがわかりました。

彼らを宇宙船に収容し終わると、先にシリウスBに戻ってもらうことにしました。

私達は、これからアリアドーネ様のお姉さまであるアルドーネ様の星へと向かいます。

アリアドーネ様は、これで今まで愛し慈しんできた星ともお別れです。

叡智の星アリアドーネ PART 4 アルドーネ星の悲劇

○行くべき者と行かざる者

私達は、ベラトリックスの宇宙船でアルドーナ星へと向かいます。

アルドーナ星はアリアドーネ星よりも次元降下が大きく、地表も荒れ果てた大地のように見えます。

私は、まず創造主にお願いしてこの星に神聖幾何学を描いてもらい、星の状況を安定させていただきようお願ひしました。

そして、アリュシャーとエルエル達に星の状況を偵察してもらうとともに、アリアドーネ様にテレパシーで呼びかけてもらうことにしました。

アリアドーネ様の呼びかけにかすかな反応がありますので、偵察隊をそこに送ります。

なにか遺跡の地下のようなところで隠れている人々がいるようですので、私は、すぐに神の通路をその近くに作り、降り立つ準備をします。

私とアリアドーネ、特殊工作隊のコロボックル、そしてアウディケウスが先に降ります。

遺跡に隠れている人々は、光の膜を作り、さらに頑丈な檻のようなもので自分たちを囲み、身を守っています。おそらく次元降下した星のエネルギーから自分たちのエネルギーを守るための保護を行っているのでしょう。

私達は光りのマカバで神の通路と彼女たちの保護膜を包み安全であることを確認してから、彼女たちの元へと降り立ちました。

アリアドーネ様が、この星に起こったことや私たちの事を手短かに話しています。

お姉さんのアルドーネ様の表情に明るさが戻ります。救われることの喜びがこの空間にも満ち溢れてきます。

私は、皆さんを光りの通路を使って宇宙船にご案内しようとしたら、アリアドーネ様から思いがけない一言が出ました。

「皆さんのすべてを、私達は助けられるわけではないのです。誰が助けられて、誰がここに残らなければならないか、公正に審査してもらいます。」

私は一瞬目の前がくらくらしました。せっかく全員が助けられると思っていたのに、この場で助けられる人と残す人を決めなければならないのは、あまりにも辛い選択です。

残された人は、きっと絶望感に襲われ、生き残ることもできないかもしれません。

しかし、その事は、創造主エルシーダ様がおっしゃっていたこと「私達は、移住できる人とできない人を公正に選ばなければならない」ということだったのです。

つまり、そのスピリットの中に、愛と叡智の光りを失い、ネガティブなエネルギーを持っている人は、移住しても同じことを繰り返すので、新しい世界には連れて行けないということのようです。

次に、私の口から出た言葉に私自信驚きました。

「私のハートから「愛の結晶」と「叡智の結晶」を皆さんに、差し上げます。

これを皆さんのハートに入れてください、この愛と叡智を受け入れ、ハートに入れることができた人は、私達と一緒に来てください。」

皆さんは、私から愛の結晶と叡智の結晶を受け取ると、一生懸命そのエネルギーを受け取りハートに入れようとしています。しかし数名の人達がハートに入れることができずにあきらめたようです。

この空間を悲壮なエネルギーが包みますが、私達は前に進まなければなりません。

ハートに愛と叡智の結晶を入れることができた人たちは、神の通路から宇宙船へと戻っていきます。

○アルドーネ星の叡智の玉

私達は次の仕事にかかることにして、アリアドーネとの間にできた新種族達を呼びよせます。

それは、この星に残された叡智の光りの玉を集めることと、この星に残っている叡智のエネルギーを集めていくことです。

お姉さんのアルドーネの案内で、叡智の玉を見つけに行きます。

1つ目は、山の上であり、その叡智の玉のエネルギーは、アルドーネが保持します。

2つ目は、岩場にあり、岩の下に隠れていますのでアウディケウスに岩をどけて取ってもらい、アリアードが保持します。

3つ目は、湖にあり、アリオドネラが保持します。

この叡智の玉が3つそろふことにより、そこに大きな叡智の光りが生まれてくるようです。

みんなで手をつなぎ祈りをささげると、光り輝く叡智のエネルギーが現れられてきましたので、その光りをテトリスが自らの体に吸収して保持します。

さらに私達は、次元をさかのぼりフェアリーやホビット達を助けることにしましたが、私達の宇宙船しか残っていないので、テトにお願いして、フェアリーやユニコーンたちのエネルギーを飲み込んでもらい、テトのお腹の中に収納して帰ることにしました。

そしてもう一民族、アリアドーネの星と同じように、この星の原住民の種族がいるのですが、彼らは隠れて私達の呼びかけに答えようとしません。

どうしたものかと考えていると彼らからメッセージが伝わってきました。

それは、彼らはこの星と共に生まれ、この星と共に生きてきたので、たとえこの星の次元が降下しようとも、この星が爆発しようとも、私達はこの星の生命と一つなので、他の星に移ることはしません。この星とすべてを一つにします。

というメッセージでした。

私達は、この偉大な生命たちに敬意を表し、あふれる涙をこらえながら、アルドーネの星を後にしました。

この宇宙で、最も高い叡智を誇っていた星のひとつであるアリアドーネ星とアルドーネ星、そのもっとも崇高なる叡智とは、この星にあえて残り星の生命と運命を一つにした原住民族の「星に対する愛」だったのかもしれない。

私達は、皆さんが待つシリウスB星へと戻りました。

そして助けられたメンバーとともに、再びこの星で、創造主の意向に基づき愛と叡智の光りを保ち続けることを祈りました。

ちょうど、彼等の救出前に、帝釈天の騎士団たちをお願いしていた神殿や彼らの住居なども出来上がったようです。

